

飯塚 天嶺

しまねの農村の未来のために

土木部 県央県土整備事務所
大田事業所 農村整備課 主任技師

令和3年度採用

県職員を選んだきっかけ

田園風景を守るために

幼いころから目に映る景色の一部には田んぼや畑がある生活をしてきました。このように当たり前となっていた田園風景が年々減っているということを学生時代に知り、衝撃を感じるとともに田園風景を守っていきたいと思うようになりました。農業土木に関する職であれば思いを実現できると思ったため、島根県の総合土木職員を目指すことに決めました。



現在の仕事内容

より良い生産基盤を目指して

田畑の区画を大きく整形したり、排水性を良くしたりすることで、生産性の高い農地をつくることを目的としたほ場整備の工事監督・予算調整を担当しています。ほ場整備工事では区画整理だけでなく、用排水路や農道などの周辺施設も併せて整備するため幅広い知識が求められます。現場条件によって生じる新たな問題、生産者である地元の意見や要望に対応し、建設会社の方々とより良い生産基盤を作り上げることを目指して日々の業務に取り組んでいます。

印象に残っているエピソード

つながる仕事

以前の部署では、ほ場整備を含む農業農村整備事業全般の調査計画という工事より一つ前の段階となる業務に携わっていました。現在の部署では、工事を担当するようになり、地域の方とのやり取りの中で、「ほ場整備をしてから作業がしやすくなって本当によかったよ。」と感謝の言葉をいただいた時には嬉しい気持ちになるとともに、計画立案からようやくここまで繋がったのかという達成感を強く感じました。



転勤の良いところ

新たに知ることの喜び

県職員といえば「転勤」のイメージがあり、転勤に伴う引越しが多いと思っていましたが、これまでの勤務先は実家から通勤しています。また、私は島根県にそこそこの年数住んでいるので、県内で転勤しても新鮮さがなさそうだなと思っていました。しかし、いざ大田事業所に勤務してみると初めての道・初めての店・初めての景色など初めてのものだらけでした。県職員にとって切っても切れない転勤というものが楽しみに変わった瞬間でもありました。このため、今後の転勤も少しだけ楽しみに県職員生活を送っています。